

標準型 大声測定器

今も昔も変わらぬイベントの定番

ユニークなテーマで叫んでみてください。ストレスも発散できます。

厳密な音圧を数値で表示でき最大値のみでなく

リアルタイムでの測定も可能とします。

取扱説明書

2025年10月1日 改訂



〒780-0991 高知県高知市宗安寺 591-1

電話：(088) 843-1601 携帯：090-3041-6033

WebSite: <https://shikokudenshokukogei.jp/> E-Mail: info@shikokudenshokukogei.jp

ご利用のお客様へ

弊社の機材レンタルサービスは、この取扱説明書を読み、注意・約束を守ってご利用頂ける方を対象にしております。多機能なマシンを利用するには多少の知識が必要です。この説明書には初めての方でも、簡単に利用できるように例を示して書いておりますので最後まで必ず目を通してからご利用ください。



精密機械なので、雨に濡らしたり、衝撃を与えたり、炎天下に放置すれば不具合も発生します。また、取扱説明書（以下、本書）の手順にない使い方をすると、予期せぬ不具合も起こり得ます。更に、本書と異なる使い方トラブルが発生した場合はサポートにも限界がありますし、常時サポート可能な体制も取っていないので、説明書すら読まずに電話で「動作しない」「使う方を教えて」といったご連絡では対応致しかねます。そこで事前に余裕を持ってテストして頂き、本書通りの操作で機械の取り扱いに慣れておいてください。

<注意事項>

- ◆ 本書の一部または全部を無断転載することは禁じています。
- ◆ 本製品は機能追加、並びに品質向上のため、予告なく仕様変更する場合があります。継続的にご利用いただく場合でも、必ず本書の最新版をお読みください。
- ◆ 本書につきましては万全を期していますが、万一ご不明な点や誤り、内容の記載漏れなどお気づきの点がございましたら、弊社までご一報ください。
- ◆ 弊社では、本書の内容に従った利用で起こり得る様々なケースを想定して、事前確認を行っています。また、商品発送前にも機器の動作確認をし、お客様のお手元に商品が届いた後のテスト中に不具合があった場合に備え、商品の交換体制もできるかぎり整えています（但し近県のみ）。そのため、本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、如何なる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。同様に、本製品の故障などにより人身事故・火災事故・社会的損失などが生じても、弊社は如何なる責任も負いかねます。
- ◆ 本製品の故障などにより、人身事故、火災事故、社会的な損失などが生じても、弊社はいかなる責任も負いかねます。

目次

Page 1	表紙
Page 2	ご利用のお客様へ（挨拶、注意事項）
Page 3	目次
Page 4	1.はじめに（安全にご利用いただくための重要事項、使用上のご注意）
Page 5	2.大切な電源について
Page 6-7	3.各機器の梱包
Page 8	4.機能の紹介
Page 9	5.基本セットの内訳、6.機材の紹介
Page 10	7.機器の接続（全体図）
Page 11-12	8.機器の接続（個別）、キャノンコネクタの接続方法
Page 13	9.スタンド、
Page 14-15	10.設置方法（騒音計マイクユニット）
Page 16-18	11.設置方法（表示機）、設置方法（スタンド注意事項）
Page 19	12.動作の確認方法
Page 20	13.騒音計マイクユニット
Page 21	14.動作の確認方法（表示機）
Page 22-26	15.操作卓パネルの説明、設定方法（操作卓）、操作ボタンと動作、液晶画面（操作卓）
Page 27-29	16.利用方法 ①手動モード、②自動モード、③予選モード
Page 30-31	17.効果音
Page 32	18.寸法と重量
Page 33	19.あと片づけの注意
Page 34	20.機材チェックシート（見本）
Page 35-36	21.よくある質問と答え、問い合わせ先
Page 37-38	22.予備騒音計の利用方法、予備騒音計の取り付け方
Page 39	23.【重要】マイク 向きの調節方法

1 はじめに

この度は弊社の「大声測定装置」をご利用いただき、誠にありがとうございます。製品の性能をフルに活用していただく為にも、必ず最後までこの取扱説明書（以下、本書）をお読みください。

■安全にご利用いただくための重要事項

配線に足を引っ掛けて転ぶことが無いように人の動きを予期して配線ルートの工夫やテープなどを使って固定してください。紙テープ（クラフトテープ）の利用は機材を汚すためお控えください。表示機を屋外などの風の影響を受ける場所で利用する場合は、スタンドの利用をやめ長机の上に置くなどの対策、またはスタンドを柱などに固定する等、万が一の事故に備えてください。

テレビ番組のようにスムーズな進行を行うためには、機器の機能を理解して、司会者を含めリハーサルを行い本番のイメージをすることが大切です。特に参加者は不慣れで思いもよらない行動をとるので事前の説明だけでなく注意を書いたプレートを配置するなどして十分な安全対策に努めてください。

＜使用上のご注意 まとめ＞

- 取扱説明書（以下、本書）に従い、正しくやさしく操作してください。
- 本書を読まずに、安易に弊社に電話で問い合わせるのはお控えください。
- 機能を理解しないで操作すると、想定外の事態に慌てるとイベントを台無しにし兼ねません。基本に則り、本書をご一読ください。
- 商品は精密機械ゆえ、落とせば故障します。乱暴に取り扱わないでください。
- 本書の手順にない接続をすると、故障の原因になることもあります。
- 本機は防水・防滴仕様ではありません。屋外や水濡れの可能性がある場所では、対策を施してください。
- 本機は、精密な電子部品を多数実装しています。本機の移動および運搬時には、衝撃が加わらないように注意して下さい。
- 本機の設置場所は、直射日光の当たる場所や高温になりやすい場所を避け、なるべく日陰で通気性の良い場所でご使用ください。やむを得ず使用する場合は、熱反射シート等を利用して対策してください。
- 定格電圧は、AC100V、50/60Hz、200W 未満です。
- 電圧の安定しない発電機でのご利用はお控えください。
- 電源の詳細は、「大切な電源について」の項を参考にしてください。
- 電源コードは、機材への挟み込みやなど無理な力が加わらないよう、また発熱体への接触などにご注意ください。
- 異常音や臭いが発生した際はすぐに利用を中止し、電源コードをコンセントから抜いて、至急弊社にご連絡ください。
- 長時間利用しない場合は、電源を切り、電源コードもコンセントから抜いてください。

- 故障と感電事故を防止や、性能を維持するためにも、絶対にケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理・改良が必要なときには、事前に弊社に許可を得てください。
- 配線に足を引っ掛けて転ぶことが無いように人の動きを予期して、配線ルートの工夫や粘着力の弱い養生テープを使って固定してください。ただし、紙テープ（クラフトテープ）や布テープ（ガムテープ）の使用は粘着剤が残るため禁止とします。特に夏場の屋外は使用厳禁

2 大切な電源について

- 電源には家庭等で使われる「一般電源」をはじめ、会館など施設の照明電源として用いている「調光電源」のほか、祭りなど仮設会場で使われる「発電機による電源」など、いくつかの種類があります。
- 「一般電源」 以外でも、調節により 100V、50Hz/ 60Hz を供給することができます。ただし、タコ足配線や長いコードで接続すると本来の電圧が得られなくなり、機器が正常に動作しない場合や、配線の発熱に至る場合があります。
- 電線には抵抗があるので、負荷（機器）を接続して電流を流すと電圧を降下が生じます。実際の電圧は、負荷を接続した状態で測る必要があります。テスターでコンセントの電圧を測定し 100V（無負荷電圧）を示していても、電球を点灯させたりすると、電線の抵抗により機器側では電圧は降下します。それを防ぐには、流す電流は少なくして短く太く、更に接続箇所を少なくする必要があります。
- 例えば、イベント等で電気ドラム（コード 30m）を 3 本直列につないで 90mにし、機器を接続してみたら動作しない場合です。負荷（消費電力）が小さい機器なら、殆ど問題はありません。しかしホットプレートなど、消費電力が大きい機器と一緒に使用すると、元が 100V であっても 90m離れた場所では 80V 以下となることがあります。30m の電気ドラムを 3 本つないだ場合も同様になると考えられ、目的の機器を正常に利用できる保障はありません。

30m の電気ドラムを 3 本つなぐと・・・

- 特に古い発電機の中には電圧変動が大きなものや、ノイズが加わり正常の動作しない場合もあります。



- 会館の壁のコンセントは「一般電源」ですが、照明を明暗させるための調光電源では、100%フルで送っても波形が乱れた電源（電圧が変動する電源）しか供給できないものもあります。壁から直接とる電源ではない場合は、念のため会館職員に「パソコンなどを使っても大丈夫か？」と確認を取ってから利用することをお勧めします。
- 以上のように、電子機器には正しい電気を送るよう、細心の注意が求められます。
※安全に素晴らしいイベントが開催できることを、四国電飾工芸 スタッフ一同願っております。

3 各機器の梱包

出荷時に確認しておりますが、運送中の振動により、スタンドのネジが梱包箱や袋の中に落ちていることが稀にあります。



- ・ベルトはワンタッチロック式（長さの調節は不要）
- ・ベルトを持って持ち運ばないでください



＜騒音計 2 台とテスト用電池＞
予備の騒音計は表示機には接続できません
電池はテスト用を付属



＜操作卓＞
箱に入れたままご利用いただいても結構です。
電源アダプタは操作卓と一緒に収納してください。



<表示機>

●表示機の箱には、表示機のみを収納し、電源コードなども一切入れないでください。



●表示機梱包の際は
はめ込み式の「表示部保護版」を表示部側に取り付けてください。



4 機能の紹介



【機材全体の画像】

●計測タイミングを知らせるブザー＆LED（騒音計マイクユニット）

参加者が大声を出すタイミングを光と音でフォローする機能

●予選モード

設定したレベル以上の大声を予選通過とする機能

●リアル計測表示／ランダム数値表示

リアル：計測中の値をそのまま表示 / ランダム：計測中にランダムな数字を表示

●カウントアップ表示／一発表示

測定値をゼロから上昇変化しながら演出表示 / ボタン一発で即発表表示

●自動計測モード

ボタン1つで準備からリセットまで自動的に移行する機能

●最高得点記憶機能

最高得点を記憶し表示する機能

●操作禁止機能、通信モニター、最高得点更新アクション

操作性や演出性を上げる様々な機能

5 基本セットの内訳

- (1) 表示機：1台
- (2) 騒音計マイクユニット：1台
- (3) 操作卓：1台（ACアダプタ付属）
- (4) 表示機スタンド：1台
- (5) 騒音計マイクスタンド：1台
- (6) 表示機電源コード：1本
- (7) 操作卓⇄騒音計マイクユニット通信ケーブル15m：1本
- (8) 操作卓⇄表示機通信ケーブル15m：1本
- (9) マニュアル 機材チェックシート：各一部
- (10) 予備の騒音計（表示機には接続できない）



6 機材の紹介



<表示機>



<騒音計マイクユニット>



<操作卓とACアダプタ>



<スタンド2種類・表示機電源コード>



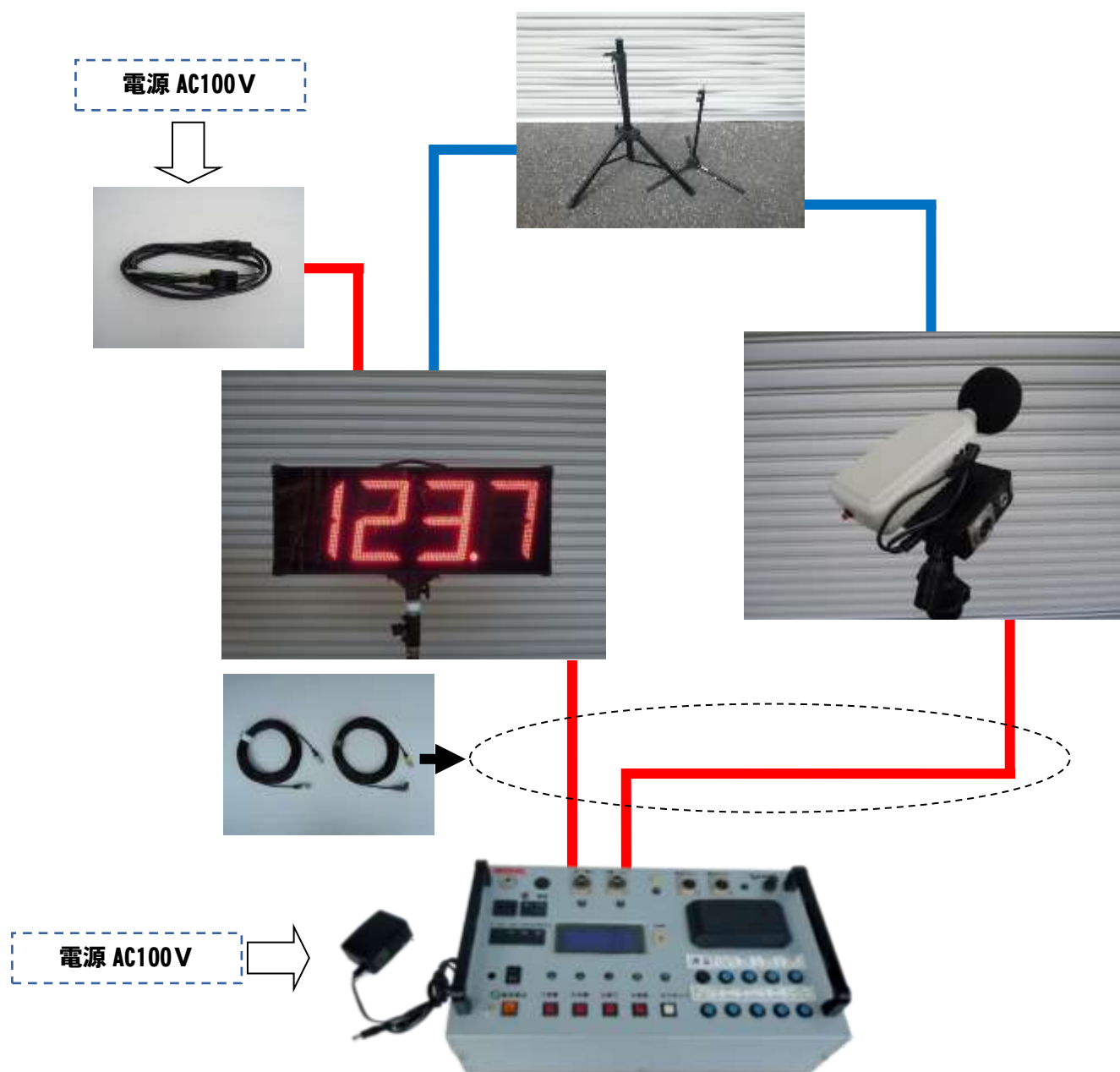
<ケーブル 15m>

左：表示機 右：騒音計マイクユニット

7 機器の接続（全体図）

- ① : 操作卓、騒音計マイクユニット、表示機の設置場所をケーブルの長さや電源の位置を考慮して決める
 - ② : 操作卓と表示機へ電源 AC100V を準備する。
 - ③ : 騒音計マイクユニットと表示機を各専用のスタンドへ取り付け
 - ④ : 操作卓⇄騒音計マイクユニットを通信ケーブル（キャノン4Pin1.5m コネクタ部黄色）で接続
 - ⑤ : 操作卓⇄表示機を通信ケーブル（キャノン5Pin1.5m コネクタ部緑色）で接続
- ※通信ケーブルにはオスメスの区別があるので操作卓側へオスを接続してください

消費電力は、合計 200W 以下です。通常のコンセントでご利用いただけます。



8.1 機器の接続（個別）



<操作卓>



<表示機ウラ面>

<表示機へ5Pin 通信ケーブルと電源を接続>



<表示機電源コード>

確実に差し込んでください



<（左）5Pin・（右）4Pin 通信ケーブル>



<騒音計マイクユニット>



<騒音計マイクユニットへ4Pin ケーブルを接続>

8.2 キヤノンコネクタの接続方法



＜通信ケーブルの接続＞
カチッと音がするまで差し込む



＜通信ケーブルを外す＞
金具ピンを押しながらプラグを抜く



＜効果音出力ケーブルの接続＞



＜効果音出力ケーブルを外す＞
金具ピンを押しながらプラグを抜く



＜表示機通信 5Pin15m ケーブル＞

＜騒音計マイクユニット通信 4Pin15m ケーブル＞

9 スタンド



＜表示機スタンドと収納袋＞



＜騒音計マイクスタンドと収納袋＞



＜支柱は抜けます＞



＜赤 危険ライン＞



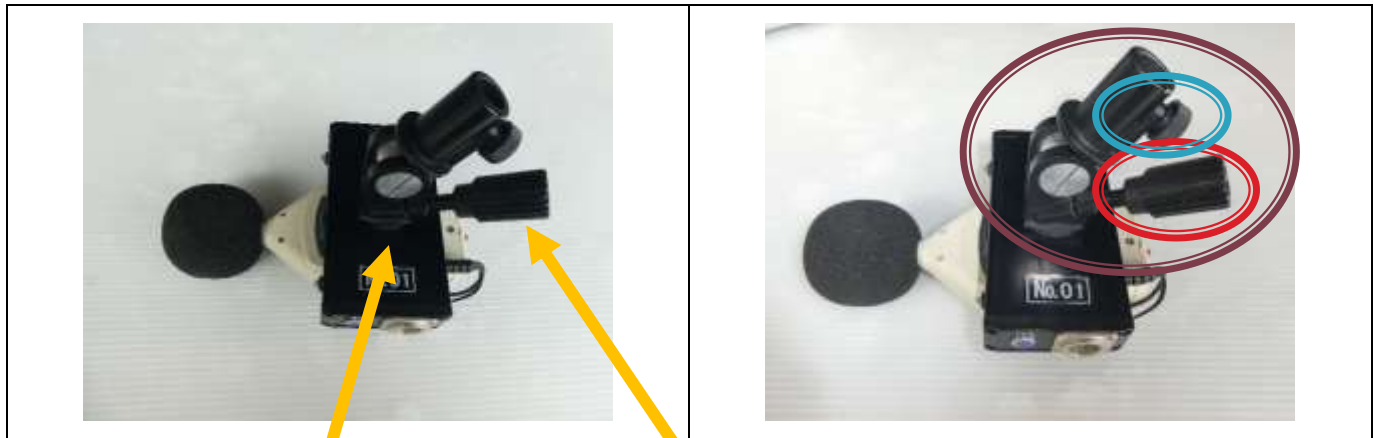
＜ロックピン＞

マイクスタンド：800mm～1330mm マイク底面
表示機スタンド：620mm～1450mm 表示機底面

10.1 設置方法（騒音計マイクユニット）

【重要】 マイク 向きの調節方法

各部のネジを締めている状態で、本体を持って無理に向きを変えないでください。黒箱とアーム部は一体型です。



接着剤で固定されています。

レバーアームは必ず後方から操作します。
前方にアームを持ってこないでください。

	金具全体を持って向きを変えないでください。 内部の基盤を破損させる恐れがあります。
	上下方向は、レバーアームを緩めてレバーで向きを変えます。
	水平方向は、ネジを緩めて本体の向きを変えます。

10.2 設置方法（騒音計マイクユニット）



このネジの操作は不要です

ネジが無くなるので片付けの際にネジを締めて返却ください

- ①：最下部のネジを緩め、脚を適度に広げネジを締める
- ②：騒音計マイクユニットを取り付ける
- ③：マイクユニットと向きなどを調節する金具は一体型です。外さないでください。
- ④：外すとネジが内部へ脱落して現場で元へ戻すことが厳しくなります。
- ⑤：最後に各部のネジを再確認する
- ⑥：転倒防止策を講じる

予備の騒音計を使う場合は、スタンド上部のアルミ製アタッチメント金具を外して取り付けます。使用された場合は、必ずアタッチメントは返却してください。

1 1 . 1 設置方法（表示機）



＜傷防止パネル＞



スタンドの上部にのせるだけです
必ずロックピンを差し込んでください

作業は必ず二人で行ってください

ネジが無くなるので片付けの際にネジを締めて返却ください

- ① :ネジを緩め、脚を適度に広げネジを締める
- ② :高さ調節をしてロックピンを掛けてから**表示機を確実にのせる**
- ③ :最後に各部のネジを再確認する
- ④ :転倒防止策を講じる

※スタンドの赤ラインは危険ライン

※支柱パイプが抜けます。

※表示機をのせて上げ下げを行うと支柱が抜け思わぬ事態を招きます。作業は必ず二人で

※表示機はのせるだけで固定ネジなどはありません

※向きが安定しない場合は詰め物をするなどしてください

1 1 . 2 設置方法（スタンド転倒 注意事項）

※危険回避！

表示機は重量物（約 13 kg）です。万が一でも転倒した場合、人に当たれば大きな事故につながる事が予想されます。周囲の状況を考慮しスタンドの高さや設置方法を決めてください。また、風の影響を受けるような場所ではオモリやゴム紐等を利用し転倒しないような対策を施してください。画像にあるような長机の上に配置することも一つの方法です。表示機へ通信ケーブルと電源コードの2本接続します。コードに足を引っ掛け表示機を転倒させることが無いように配線経路や配線養生を工夫してください。



<付属するスタンド>



<長机に載せた表示機>



（例）ブロック等を利用して転倒防止に務める



（例）ゴム紐等を利用して固定物へとめる



<広げた脚が狭いため不安定な状態>



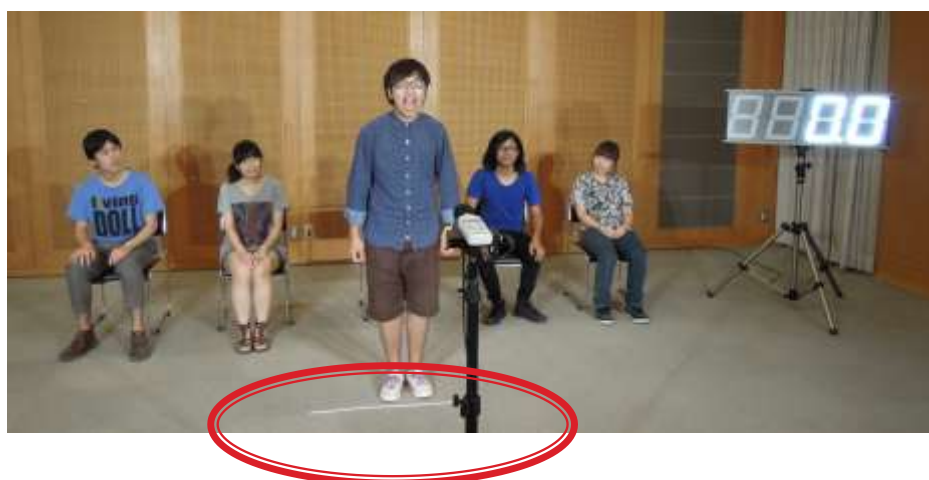
<適當の広さ>



<片付けの際の間違い>
長くなり袋に収まらない)



<片付けの際の間違い>
長くなり袋に収まらない



騒音計マイクユニットまでの距離を一定に保つために足元にラインを引いている
表示機は操作卓オペレーター、司会者、参加者、観客から見える位置へ配置する

1 2 動作の確認方法

- ① 全ての接続を完了させる
- ② 接続や設置を再確認する 抜けかけていませんか？
- ③ 表示機の電源（オレンジ色スイッチ）を投入する。
- ④ 操作卓の電源スイッチを投入する。
- ⑤ 騒音計後部の赤色ＬＥＤが点灯する

操作卓を使って動作チェック

- ① 設定スイッチ４個は全てＯＦＦに
- ② 操作禁止スイッチがＯＮであればＯＦＦに
- ③ 効果音「オープニングスタートレック」ボタンを押してみる 音量調節つまみで適音に
- ④ 効果音 音響設備への動作を確認する
- ⑤ 予選モードスイッチ 「0」 ゼロを確認
- ⑥ リセットランプが点灯していなければ、リセットボタンを押す
- ⑦ 計測ボタンを押して、液晶や測定を確認
(ア) マイクに向かって叫んでみる
(イ) 叫ばなくても環境音として 60 デシベル前後の値はでます
- ⑧ 終了ボタンを押して計測を終了させる
- ⑨ 発表ボタンを押して結果を表示させる
- ⑩ リセットボタンを押して初期化する
- ⑪ 設定スイッチを変えて好みのモードへテストする
- ⑫ 本番前に記憶された最大値を消去する

うまく動作しない場合は配線を再確認する

音響設備がうまく動作しない場合は操作卓スピーカーからの音をマイクで直接拾う



1 3 騒音計マイクユニット

- 通信ケーブル 1 本で信号と電源を扱っています。
- 金属ケースにある電源コネクタに電源を送る必要はありません。
- マイク本体へ 2 本のコードが確実に接続されていることを確認してください。



- 信号入出力（キャノン 5 P i n）
操作卓へ 4 Pin ケーブルで接続
- 電源入力（未利用）



- L E D 5 個（常時レベル点灯）
緑 1 : 70dB、緑 2 : 80dB
緑 3 : 90dB、黄 : 100dB
赤 : 110dB



- L E D 2 個（同じ動作）

- ①準備：赤点滅 ●●●●●
- ②計測中：緑点灯 ●●●●●
- ③計測終了：消灯 ●●●●●

1 4 動作の確認方法（表示機）



【表示機のウラ面 接続パネル】

操作は、電源スイッチのみで設定等不要で動作します。

- ① 設定スイッチ [0] 利用モードを確認する。
- ② 電源スイッチ（オレンジ色スイッチ）を投入する。

※操作卓の電源が入っていれば信号コネクタの上にあるLEDランプが点滅します。（通信中）

※液晶表示が乱れることがあります但測定値に影響はありません。気になる場合は電源を一度入れ直してください。

※表示機テストモード（表示に問題が無ければ使用しなくてもよい）

設定スイッチを [1] へ切り替える 赤色LED点灯

表示テストモードは [0. 0. 0. 0.] → [1 1 1 1] → [2. 2. 2. 2] → [3 3 3 3] → と数字を変化させる

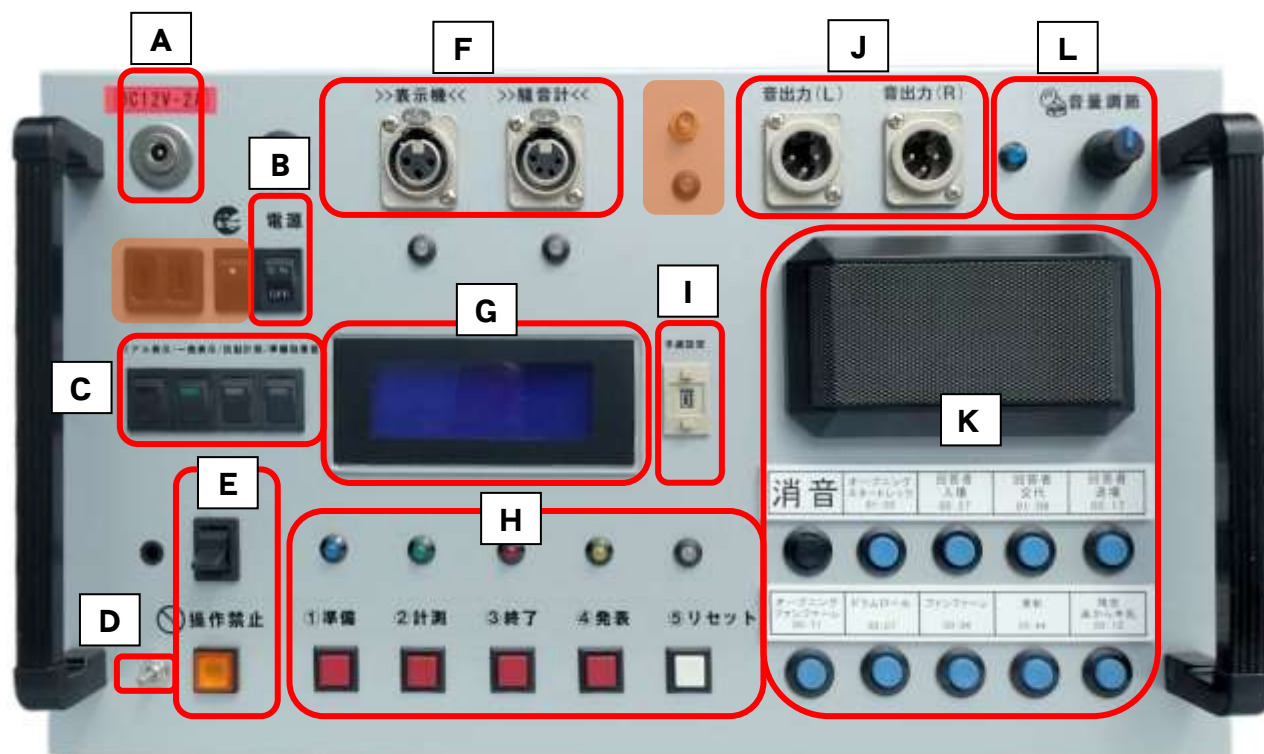
ドットについては、大声測定器では不要な桁のドットは隠している。

液晶表示は [0. 0. 0. 0.] は [0. 0] と表示

液晶表示は表のLED表示とは同期していない [0. 0] → [2 2 2 2] → [4 4 4 4] 等の表示で問題はありません。

表示に問題なければ設定スイッチを [0] の位置へ！ ※現在 [1] 以外の数字は全て利用モードになっています。

15.1 操作卓パネルの説明



【A】－ [電源 DC12V2A の電源を接続 (AC アタプタ)]

【B】－ [電源 スイッチ]

【C】－ [設定スイッチ] 表示方法などの設定

【D】－ [液晶調整] コントラスト調節つまみ

【E】－ [操作禁止] 不用意な操作を防ぐスイッチ

【F】－ [通信] 表示機へ 4Pin コードで接続 騒音計へ 5Pin コードで接続

【G】－ [液晶表示画面] 騒音レベルなどを表示

【H】－ [操作ボタン] ゲームの操作ボタン

【I】－ [予選設定] ▼通常のゲームは【0】を選択

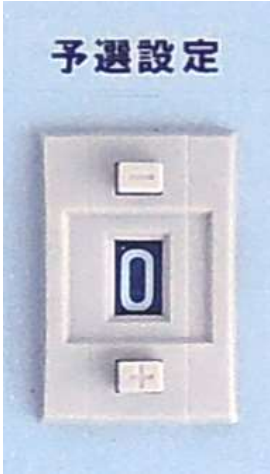
【J】－ [効果音] 出力 (L:左・R:右)

【K】－ [効果音] 効果音の選択とスピーカー

【L】－ [効果音] 音量調節つまみ ▼LINE 出力には連動しない

 → 未使用エリア

15.2 設定方法（操作卓）

 リアル表示 / 一発表示 / 自動計測 / 準備効果音 (A B C D)	【電源スイッチ】 起動には電源を入れて約0.5秒掛かります。 【設定スイッチ】 A : (赤LED) : ランダム数値表示 (OFF側) / リアル計測値表示 (ON側) B : (緑LED) : カウントアップ表示 (OFF側) / 一発表示 (ON側) C : (黄LED) : 自動計測モードOFF / ON D : (黄LED) : 準備効果音の消音ON / OFF ● ランダム数値表示 : 計測中はランダムな数字が回転 ● リアル計測値表示 : 計測中は騒音計の値を表示 ● カウントアップ表示とは : ゼロから最大測定値へ数字が上昇表示 ● 一発表示とは : 即発表 ● 自動計測モード : 準備から自動的に計測、終了、発表、リセットへ移行 ● 準備効果音 : 準備のボタンで鳴る効果音
	【予選設定】 事前にプリセットされているレベル値 (70 dB、80 dB、90 dB、100dB、110 dB) を超えると予選通過効果音 (おめでとう的な音)、超えない場合は予選不通過効果音 (ざんね～ん的な音) が鳴る。設定レベル値は操作卓の液晶画面で確認することができる。 スイッチ上部 (-) を押すと減算 下部 (+) を押すと加算 予選モードを利用しないときは、スイッチは「0」：通常モードの位置へ



【操作禁止機能】“利用は自由”

操作禁止スイッチをONにすると、設定スイッチ、予選設定を除く全ての機能（効果音を含む）の操作を禁止にすると同時に⑤リセット状態で待機となります。この機能は、準備中等にオペレーターが誤ってボタンを操作することを防ぎます。

【液晶表示】液晶画面の文字が見えにくい場合に調節するボリューム

15.3 操作ボタンと動作



【制御系操作ボタン】

- 【① 準備】: 効果音①（設定D＝ON/OFF可）、騒音計（赤LED2度点滅）（ブザーが二度鳴る）
- 【② 開始】: 計測開始（ 設定A）による表示アクション、騒音計（緑LED点灯）
- 【③ 終了】: 計測終了 表示機消灯、騒音計（緑LED消灯）
- 【④ 発表】: 計測値発表 効果音 （設定B）による表示アクション
- 【⑤ リセット】: 表示（0.0）
- 【⑤ リセット】:（2秒長押）: 最大値記憶の消去
リセットLEDは最大値が記録されると●赤色で点灯 消去されると●緑色で点灯

最大値記憶は電源を切るとデータは消去されます。

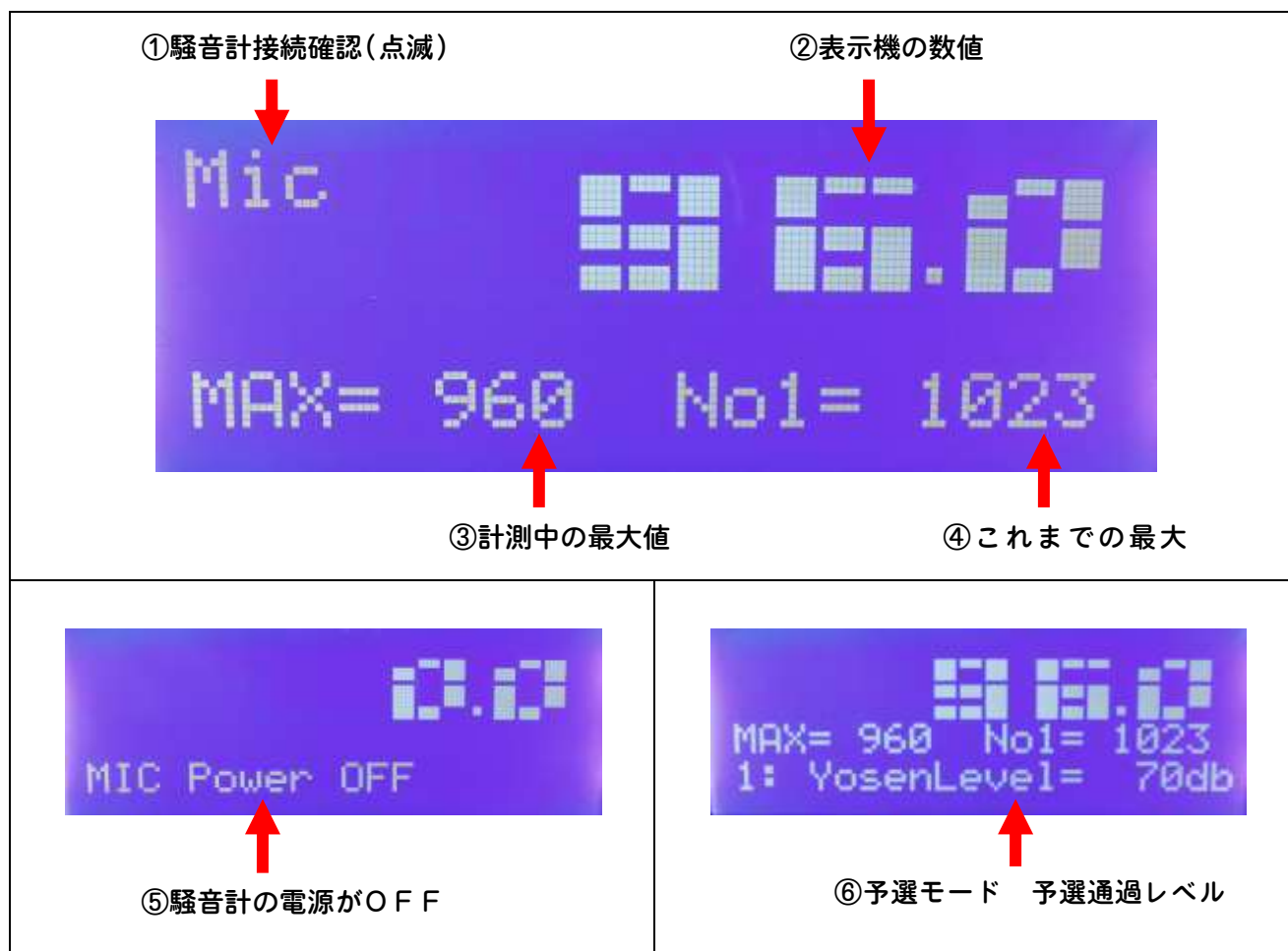
最高値を更新すると更新効果音と表示機点滅アクションで派手に演出
※最高値のデータが空の状態を始めると最初の測定者は最高値アクションとなります。

ゲーム進行上の誤操作を防ぐために、現在の状態から次に押せるボタンを制限しています。

	①準備	②開始	③終了	④発表	⑤リセット	←押したボタン
①準備	▼▼▼	◇	◇	◇	●	
②開始	●	▼▼▼	◇	◇	●	
③終了	◇	●	▼▼▼	◇	◇	
④発表	◇	◇	●	▼▼▼	●	
⑤リセット	●	●	●	●	▼▼▼	
↑次に押せないボタン						

（▼▼▼＝現在動作中 ●＝押せる ◇＝押せない 例）①準備を押したら次に③終了は押せない）

15.4 液晶画面（操作卓）



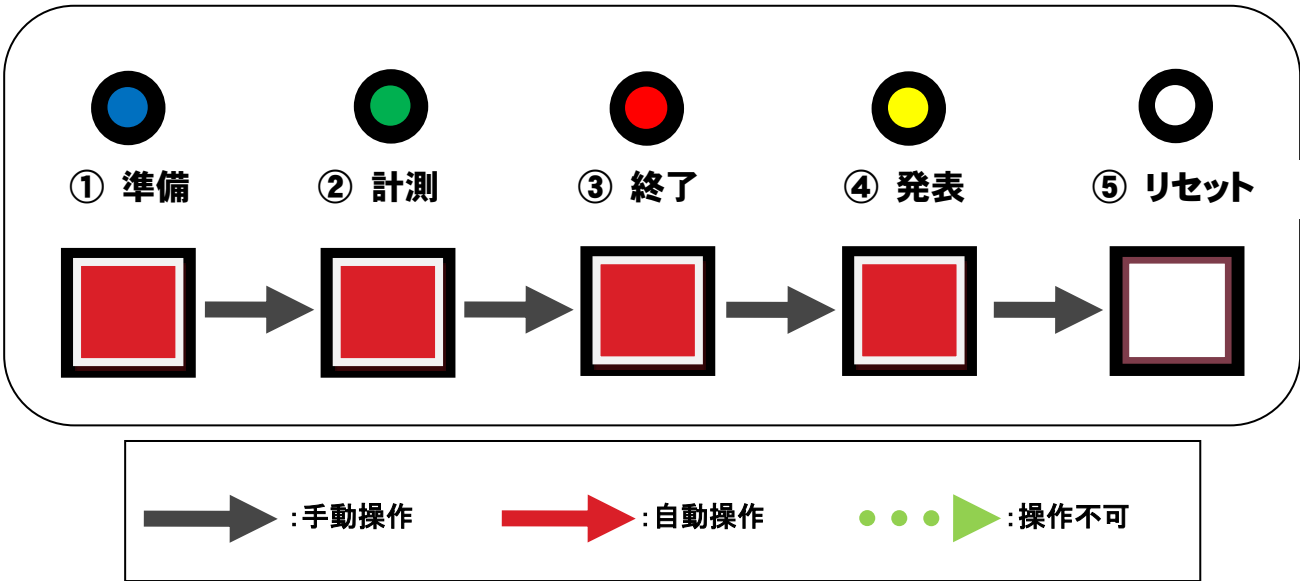
- ① : MIC = (騒音計)、騒音計との通信状態を点滅表示 切断の場合は非表示
 ② : 表示機へ出力する値
 ③ : 現在の計測最大値
 ④ : これまでの計測最大値 (最初はゼロ、計測中に過去の値を更新すると同時に数値も更新)
 ⑤ : 騒音計の電源がなった場合に表示
 ⑥ : 予選モードの表示と予選レベル値



液晶画面のコントラスト調整

文字が薄い場合など見えにくい場合にボリュームを調節してください。

16.1 利用方法 ①手動モード



特徴：自由なタイミングで操作することができます。

操 作	内 容
①準備	効果音鳴る→騒音計（赤色 LED 2 回点滅 ●●●● ブザー）、表示は消灯
②計測	騒音計（緑色 LED 点灯 ●）→設定 A に従い表示
③終了	表示は消灯→効果音鳴る→騒音計（緑色 LED 消灯 ●● ブザー）
④発表	効果音鳴る→設定 B に従い表示
⑤リセット	表示は[00]

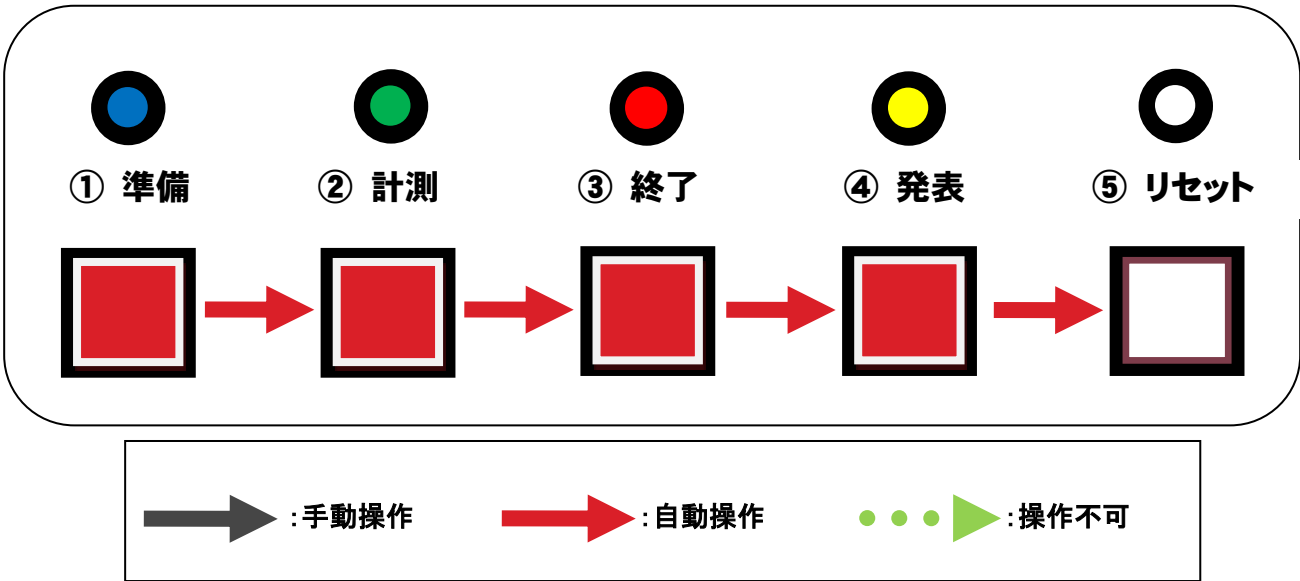
【注意事項】

①準備ボタンは必ずしも利用する必要はありません。

①準備から②開始への操作タイミングは騒音計マイクユニットで鳴るブザー音を計測しないようにするために、一定の間隔をあけるようにプログラムされています。

・各操作系ボタンは現在の状態から次に押せるボタンは誤操作防止のために操作制限しています。

1 6 . 2 利用方法 ②自動モード



特徴：1つのボタン操作で簡単にゲームを行えます。

操 作	内 容
①準備	効果音鳴る→騒音計（赤色 LED 2 回点滅 ●●●● ブザー）、表示は消灯
計測	騒音計（緑色 LED 点灯 ●）→設定 A に従い表示 ※計測時間：約 3 秒間
終了	表示は消灯→効果音鳴る→騒音計（緑色 LED 消灯 ●● ブザー）
発表	効果音鳴る→設定 B に従い表示 ※約 5 秒後にリセットへ
リセット	表示は[00]

- ①準備ボタンだけでゲームをすることができます。
- ②計測から③終了まで時間は固定（約 3 秒）で変更できませんが、間延びする場合は手動で③終了を押してください。

【注意事項】

- ①準備から②開始への操作タイミングは騒音計マイクユニットで鳴るブザー音を計測しないようにするために、一定の間隔をあけるようにプログラムされています。
- ・ 自動モード利用時でも手動のように次に押すボタンを手動操作することもできます。
- ・ 各操作系ボタンは現在の状態から次に押せるボタンは誤操作防止のために操作制限しています。

16.3 利用方法 ③予選モード



预选設定スイッチは数字の上下にある出っ張りを押しこむことで設定値を変更可能

- ① 操作卓液晶画面の横にある预选設定スイッチ[1][2][3][4][5]で预选モードON
- ② [1]: 70 dB、[2]: 80 dB [3] 90 dB [4] 100 dB [5] 110 dB
- ③ 設定値を超えると预选通過効果音（おめでとう的な音）が鳴る。
- ④ 超えない場合は预选不通過効果音（ざんね〜ん的な音）が鳴る。
- ⑤ 設定レベル値は操作卓の液晶画面で確認することができる。

预选モードを利用しないときは、スイッチは「0」の位置へ

自動モード、手動モードとも利用可能

【注意事項】

①準備ボタンは必ずしも利用する必要はありません。（手動モード）

①準備から②開始への操作タイミングは騒音計マイクユニットで鳴るブザー音を計測しないようにするために、一定の間隔をあけるようにプログラムされています。

- ・ 自動モード利用時でも手動のように次に押すボタンを手動操作することもできます。
- ・ 各操作系ボタンは現在の状態から次に押せるボタンは誤操作防止のために操作制限しています。

17 効果音

この大声測定器の操作卓には 16 種類の効果音があらかじめ記憶されています。
 オプション対応で効果音の内容を変更することができますので必要な方は事前にご相談ください。



操作卓内蔵スピーカーの音量は、スピーカー上部の音量調節つまみで適音にしてください。効果音作動中は青LEDが点灯します。

【消音】上段左端のボタンを押すことで鳴っている効果音を停止させることができます。

会場の音響設備や持ち込みの音響設備へ効果音をステレオ出力することができます。 効果音のライン出力はキャノン3P（オス）1番：グラウンド 2番：ホット アンバランス出力 レベルは固定 フルスケールで 1Vp-p 出力インピーダンス 51KΩ（不平衡）

操作卓内蔵スピーカーの音量調節で、音出力のレベルを調節することはできません。 効果音をフェードアウトしたい場合は音響設備側で行ってください。必ずしも〔L〕〔R〕の2chを接続する必要はありません。

外部機器への接続資料

機器	ケーブル	コネクタの形状
 ミキサーへの接続	 キャノン 3P オスメスコード	
 ギターアンプへの接続	 キャノン 3P メス-フォン	
 有線マイクで直接集音	 キャノン 3P メス-フォン	

■効果音 演出系（ボタンスイッチで操作）

対応	内容	時間	ファイル名
オープニング	スタートレックのテーマ	1 分	ST9U0008.MP3
回答者入場		2 7 秒	ST9U0009.MP3
回答者交代		1 分 5 秒	ST9U0010.MP3
回答者退場		1 7 秒	ST9U0011.MP3
オープニングファンファーレ		1 1 秒	ST9U0012.MP3
ドラムロール		7 秒	ST9U0013.MP3
ファンファーレ		4 秒	ST9U0014.MP3
表彰		4 4 秒	ST9U0015.MP3
残念	鼻から牛乳	1 2 秒	ST9U0016.MP3

■効果音 操作系（ゲームの進行に合わせて自動的に鳴る）

対応	内容	時間	ファイル名
①開始	ダダダダーン！	1 秒	ST9U0001.MP3
②開始	無音		
③終了	ジャジャジャジャン！	1 秒	ST9U0002.MP3
④発表	軽快な曲	8 秒	ST9U0003.MP3
発表 → 得点停止	パッカカパー♪	2 秒	ST9U0004.MP3
発表 → 得点更新	派手な曲	2 秒	ST9U0005.MP3
予選モード（通過）	おめでとう	2 秒	ST9U0006.MP3
予選モード（不通過）	ざんね～ん	2 秒	ST9U0007.MP3

演出系効果音はゲームの進行に関係なくいつでも鳴らすことができます。

効果音は後で押したボタンが優先となります。例）②発表ボタンを押して効果音が鳴っている最中にファンファーレや消音などの演出系効果音ボタンを押すとゲームは継続のままで効果音は入れ替わります。ゲーム進行中は不用意にボタンに触らないようにしてください。

全ての効果音は操作禁止スイッチがONの状態では利用できません。

【技術資料】

音素材 USBメモリ → SST900U フォルダ → ST9U0001.MP3～ST9U0016.MP3

※音素材転送中は効果音 LED（青）が点灯 → 転送完了後に消灯 → 電源再投入

1 8 寸法と重量



●梱包箱のサイズと重量 （ヤマト運輸 160 サイズ×2 個）

手前側の箱のサイズ 操作卓、マイク、スタンド、ケーブルなど	940mm×230mm×H:430mm 重量：16kg
奥側の箱のサイズ 表示機のみ	360mm×830mm×H:41mm 重量：13 kg

●各機器のサイズなど

表示機	横幅：855mm×奥行：160mm×高さ：330mm 突起物は除く
表示機スタンド	620mm～1450mm 表示機下部までの高さ
騒音計マイクユニットスタンド	800mm～1330mm 騒音計ユニット下部までの高さ
操作卓の青箱	横幅：455mm×奥行：315mm×高さ：170 mm 突起物は除く

※寸法は実測したのですがモノや扱い方によっては多少の差がありますことをご了承ください

19 あと片づけの注意

- ① 操作卓と表示機の電源を切り接続コードを全て外す
- ② 表示機本体を先に片付ける **転倒防止**
- ③ 緩めたネジは必ず締める **紛失防止**
- ④ 状態と数を確認して梱包&出荷

■お願い

- **コードは巻かずにそのまま箱へ入れてください。**
- チェックシートで数量を確認して受取時のように梱包してください。
- ご意見、ご希望、ご感想などありましたらチェックシートへ
- 商品に不具合等があった場合はメモ書きなど入れて頂けると幸いです。

コードを痛めないために



“コードは巻かず” にそのまま箱へ入れてください。



この巻き方は絶対にしないで！

20 機材チェックシート（見本）

－ 大声測定器 機材チェックシート －

- この度は、大声測定器のご利用ありがとうございます。
- 最初に機材数を確認して取扱説明書に従いお取扱ください。
- **利用後のケーブルは巻かずに返却してください。**
- 不明な点がございましたら 090-3041-6033 岡 までお願いします。

レンタル先：	納入予定日	：	年	月	日
	ご利用日	：	年	月	日
	返却発送日(厳守)：		年	月	日

品 名	基本数 (追加数)	発送 確認	受取 確認	発送 確認
操作卓（アタブタ付属）	1 台（ ）			
表示機（アタブタ付電源コード）	1 台（ ）			
騒音計マイクユニット・プラ箱	1 台（ ）			
表示機スタンド	1 本（ ）			
騒音計マイクユニットスタンド	1 本（ ）			
通信 4Pin ケーブル 15m	1 本（ ）			
通信 5Pin ケーブル 15m	1 本（ ）			
マニュアル一部（要返却）	一冊（ ）			
運送伝票	1 枚（ ）			
運搬用通函	2 個（ ）			
予備騒音計				

動作確認				
見た目の異常				
（具体的に記入）				

アンケート とても満足・満足・普通・不満・とても不満 （○で囲む）

- ご意見、ご希望、ご感想などありましたらご記入ください。

2 1 よくある質問と答え

▼大声測定器以外に必要なものは何でしょうか

操作卓と表示機へそれぞれ電源（100V）、電気ドラムや延長コード
騒音計までの距離を一定に保つためのライン、得点を書き込む紙やマジックペンなど小道具

▼スムーズに進行させるために気を付けることは

他の催しと同じステージで大声測定を行う場合は、事前に表示機、騒音計マイクユニット、操作卓などの位置を決めビニルテープなどでマークします。表示機は重いのでスタンドに載せたままでの移動は危険です。可能であれば事前に設置することがベストですがステージ転換で準備する場合は、スタンドに一人、表示機に二人、ケーブルに一人の4人態勢で作業してください。スタンドを利用しないでキャスター付きの長机を利用すると転換は楽に行えます。

▼いつ最大値は計測されるのですか

計測開始から終了までの間の最大値で、その間の平均値ではありません。一時的にでも大きな声を出したらその値を最大値として計測することになります。

▼騒音計マイクユニットと参加者との距離はどのくらいがいいですか

身長差で騒音計マイクユニットとの距離は変化しますので、大人の部と子供の部で高さは調節した方がよいと思います。一般的な測定には音の発生源から1メートルの距離をおいて何デシベルという計測方法が用いられます。大声測定はあくまでもゲームですので実際に大きな声の人に叫んでもらって100デシベル前後になる距離がよいかと思います。次回も同様のイベントを行う場合にはマイクとの距離を記録して同じにすると比較することができます。

▼騒音計マイクユニットの向きで測定結果がどの程度影響されますか

騒音計マイクユニットのマイクは無指向性マイク（どの方向からの音も集音する）になります。ある程度口元へ向けておくことで計測に問題はありません。距離が変わると測定結果に大きな影響を与えるため、参加者間で公平を期するためには口元から騒音計マイクユニットまでの距離は一定に保つ必要があります。

▼ゼロにならない 常に40から60デシベル前後の値がでる

測定結果は、30デシベルから130デシベルの範囲で表示されます。静かな環境でも音があり40から60デシベルの値が表示されます。近くに騒音源があればその値が計測されます。

▼会場の設備が分からないので接続できるか不安

万が一、接続コードの形状などが合わずに接続できない場合は、操作卓のスピーカーヘワイヤレスマイクなどのマイクを直接向けることで緊急対応は可能です。

▼ライン出力からスピーカーへ接続できますか

ライン出力はミキサーやアンプ、アンプ付きスピーカー等へ出力するためのレベル（音の大きさ）しかないため。直接スピーカーを接続して鳴らすことはできません。

▼効果音を鳴らさないで使用したい

音量調節つまみでゼロ（左に止まるまでまわす）にしてください。

▼通信ケーブルの延長はできますか

事前にご相談ください。4 5 mでの実績はあります。

▼ウインドスクリーンは何のため

風の音を誤って測定することから防ぐためのもので常に付けておいて問題はありません。

▼転倒防止対策

ブロックなどの重量物を置きロープなどでスタンドを下方向へ引っ張る

▼測定値をリアルタイムで表示させたい

設定スイッチ（リアル表示ON）（自動計測OFF）、②計測ボタンを押してください。

▼表示の明るさを落とすことはできますか？

できません。フィルターなどを利用して減光する方法が有効

▼観客の拍手を測定したい

利用実績あり。拍手が平均的に集音できる位置にマイクを設置することが重要です。特定の人の拍手だけを拾わなをいように観客から距離を取ると良いでしょう。事前に幾つかの設置ポイントを決めておいてリハーサルを行い決めることをお勧めします。

**ご不明な点がございましたら
時間に余裕を持って事前にお問い合わせください。**

四国電飾工芸

電話 (088)843-1601 携帯 090-3041-6033

2 2 予備騒音計の利用方法

安心のための予備騒音計、万が一のときにご利用ください。



予備騒音計は、表示機や操作卓に接続することはできません。

本番用の電池をご用意ください。単三アルカリ 4 本（3 本）

- ① 左下の電源スイッチを押す 起動
- ② A/C ボタンを押して「A」に設定
- ③ FAST/SLOW ボタンを押して「FAST」に設定
- ④ 中央部上下のボタンを押して、測定範囲：最低を 30、最大を 130 に設定

②から③の設定状況は液晶画面で確認できます。

※電源を切ると設定が消える場合がありますので注意してください

測定方法 > 大声を測定するときに「MAX」ボタンを押すと、それ以降の最大値を保持します。もう一度押すと保持が解除されます。

※同機種でデザインが異なる場合がございます。ご了承ください。

予備騒音計の取り付け方



左：16mmダボ金具凸 右：5/8 ネジ



アルミ製のアタッチメント金具

マイクスタンドの上部に付いている「アルミ製のアタッチメント金具」を外してから、予備騒音計を取り付けてください。外した金具は元に戻しお返してください。

23 【重要】マイク 向きの調節方法

ネジを締めた状態で、本体を持って向きを変えないでください。



固定されています。

アームレバーは後方側から操作します。

	本体を持って向きを変えないでください。 黒い金属ケースとアーム部は一体型です。
	上下左右の向きは、アームレバーを緩めてレバーで向きを変えます。
	ネジはしっかり締めてください。